

収蔵品展

千葉治平と田沢湖展

—詩人の魂と科学者の眼で—

千葉治平（一九二二—一九九二）

大正十年、秋田県の旧田沢湖町に生まれる。十五歳で単身、満州に渡り、昭和十九年大連市の南満州工業専門学校を卒業後、満鉄に入り、応召。同年帰国。復員後、日本発送電を経て、東北電力勤務。

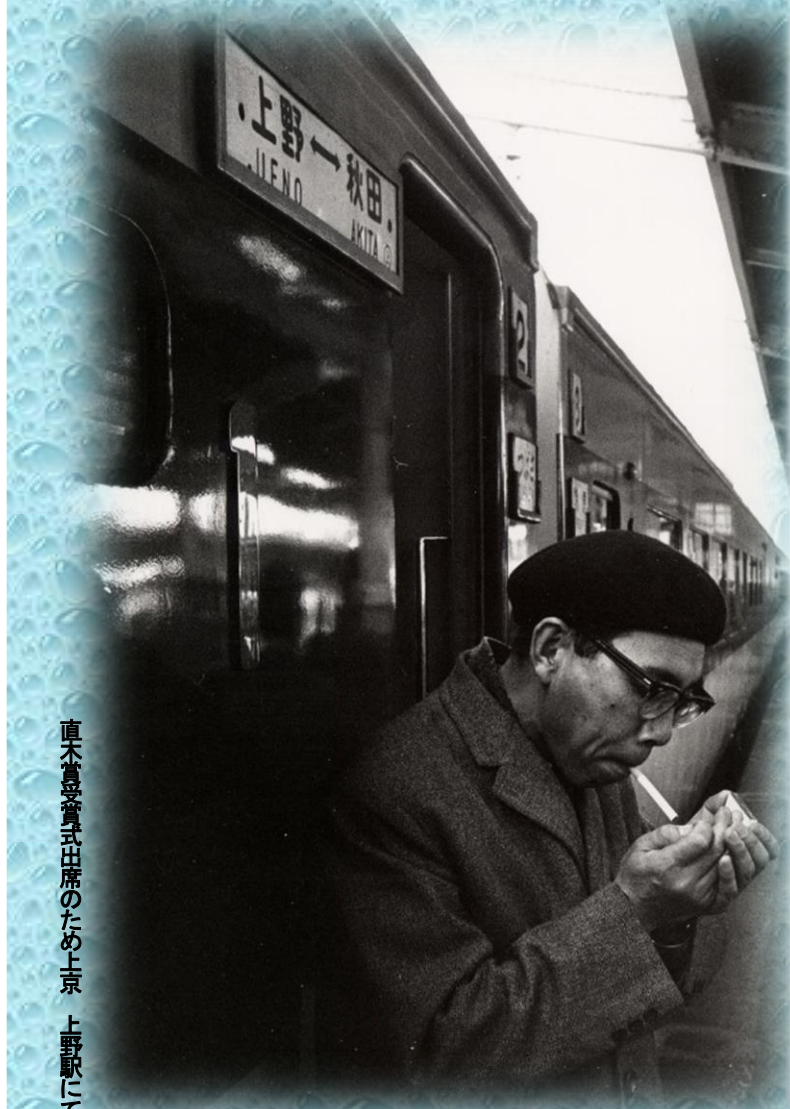
昭和二十一年「蕨根を掘る人々」で秋田魁新聞の第一席に当選。

昭和二十九年「馬市果てて」で地上文学賞（家の光協会）。

昭和四十年『虜愁記』で第五十四回直木賞受賞。

『八郎潟—ある干拓の記録』（講談社）、『アングスの花』（家の光協会）、『山の湖の物語』（秋田文化出版社）ほか。

平成三年の『南部半方ぶし』（盛岡タイムス）が絶筆となった。



直木賞受賞式出席のため上京 上野駅にて

会期 2015. **11.10** (火) ~ 2016. **4.10** (日)

会場 新潮社記念文学館

展示協力／奥田敦夫氏

開館時間／午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

※12月から3月 午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休館日／毎週月曜日、年末年始（12月28日から1月4日）※祝日は開館

観覧料／一般（高校生以上）300円 小・中学生150円

問合せ先／新潮社記念文学館 秋田県仙北市角館町田町上丁23 TEL0187-43-3333